

重点取組分野	令和7年度		総括	重点取組分野	令和8年度		総括	重点取組分野	令和9年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①研究主題を「ともに関わり学び合いながら、自分を高める子の育成」とし、様々な教科・領域において、切実感をもつ、友だちと話し合いながら、問題解決していく授業を目指し、資質・能力の育成に取り組む。②リーディングDX指定校として、情報活用能力の育成を図りつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指す。	リーディングDX指定校としての研究を通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ってきた。子どもたちが自ら学びに向かうために、魅力的な学習課題を設定し、学びのサイクルを子ども自ら回していく姿が見られた。自分のためをめざして学習を毎時間振り返り、自己の学びを調整していくことができるようになった。情報活用能力、その情報を整理し、まとめる力も伸びてきている。また、対話を通して学びを深めた新しい考えを構築したりする姿も見られた。しかし、自分の考えを言語化することが難しい児童や、情報を収集・共有する段階にとどまり、その後の深い思考や学びの調整まで至らない児童、「対話」が表面的な伝合合いになり、考えを深めるに至らない児童も見られた。次年度は、今年度の研究を継続しつつ、考えたことを整理し、表現(アウトプット)する力を育むための指導・支援の工夫をしていきたい。	A	生きてはたらく知	①研究主題を「ともに関わり学び合いながら、自分を高める子の育成」とし、様々な教科・領域において、自ら学びに向かい、友だちと話し合いながら、問題解決していく授業を目指し、資質・能力の育成に取り組む。②生成AIパイロット校認定校として、情報活用能力の育成を図りつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指す。			生きてはたらく知	c1		
豊かな心	①「特別の教科 道徳」を豊かな心の育成の中核ととらえ、道徳における「見方・考え方」を働かせる工夫をし、価値把握の理解や振り返りの充実を図り、自分事として日常的な実践につなげられるようにする。②KFT(縦割り活動)をはじめ、各学年の実態に応じた人権福祉教育を行い、子どもの自尊感情や自他を大切にすることを育む。	①「特別の教科 道徳」を豊かな心の育成の中核ととらえ、道徳における「見方・考え方」を意識した授業づくりに取り組んだ。発問や振り返りを工夫することで、児童が価値を自分事として捉え、日常生活の中で実践しようとする姿が見られ、価値理解の深化につなげることができた。②KFTや人権福祉教育、委員会活動による全校での「やさしいっばい大作戦」「ハッピー大作戦」などの取り組みを行うことで、子どもの自尊感情や自他を大切にすることを育むことができた。	B	豊かな心	①「特別の教科道徳」を豊かな心の育成の中核ととらえ、道徳における「見方・考え方」を働かせる工夫をし、価値把握の理解や振り返りの充実を図り、自分事として日常的な実践につなげられるようにする。②KFT(縦割り活動)をはじめ、各学年の実態に応じた人権福祉教育を行い、子どもの自尊感情や自他を大切にすることを育む。			豊かな心	c2		
健やかな体	①一校一実践の体力アップ活動(マラソン)を児童が主体的に取り組むことができるよう計画的に進め、体力の向上と運動に慣れ親しむ資質・能力を育む。②学校保健委員会を中心に心の健康についての学び、全校児童に発信することで、自他を大切にすることを育む。また、昨年度同様全校でストレッチに取り組み、柔軟性の向上につなげる。③保健、体育の授業の充実と食育の推進を図る。	①一校一実践の体力アップ活動(マラソン)を計画通り進めることができた。代表委員会の議題として取り上げることで積極的に参加できるようになった。体力の向上と運動に慣れ親しむことができた。②学校保健委員会を中心に心の健康についての学び、全校児童に発信することができた。また、昨年度同様全校でストレッチに取り組み、多くのクラスで習慣化させることができた。③保健、体育の授業ではタブレット端末を活用し、授業改善に取り組むことができた。	B	健やかな体	①一校一実践の体力アップ活動(マラソン)を児童が主体的に取り組むことができるよう計画的に進め、代表委員会を通して全校が取り組んでいくという意識を高めていく。体力アップ活動(マラソン)を通して、体力の向上と運動に慣れ親しむ資質・能力を育む。②保健、体育の授業の充実と食育の推進を図る。			健やかな体	c3		
異学年交流	①高学年が段階的にKFTの企画・運営を担うことでリーダーとしての役割や責任を自覚し自信をもって主体的に活動に取り組めるようにする。②上級生からアドバイスをもらう時間を設定することで高学年の交流を活性化し、共に学校を支えようとする心情を育てる。③ペア間の交流を密にし学校全体での温かい人間関係の構築を推進する。	①5年生時に6年生からアドバイスを得ながら企画・運営を経験したことで、6年生になった時に自信をもってより積極的に活動に取り組む姿が見られた。②4・5年生は企画・運営を担う際5・6年生に相談に行き、5・6年生は喜んでアドバイスをした。その関係性の中でリーダーとして主体的に活動に関われるようになった。③ペア学年ごとに工夫して交流の機会を増やすことができた。	A	異学年交流	①高学年が段階的にKFTの企画・運営を担うことでリーダーとしての役割や責任を自覚し自信をもって主体的に活動に取り組めるようにする。②上級生からアドバイスをもらう時間を設定することで高学年の交流を活性化し、共に学校を支えようとする心情を育てる。③ペア間の交流を密にし学校全体での温かい人間関係の構築を推進する。			異学年交流	c4		
いじめへの対応	①研修やいじめ防止対策委員会を通して教職員一人ひとりのいじめに対する感度を上げ、未然防止・早期発見・早期対応を徹底する。②YPプログラムを積極的に活用し子どもの社会的スキルの育成を図るとともに、温かい学級風土の醸成に努める。③いじめアンケートと面談内容を全校で共有し組織的な見守り体制を充実させる。	①いじめ防止対策委員会を丁寧に行ったり全体共有したりしたことで学校全体のいじめへのアンテナの感度が高くなった。②ケース会議でYP支援検討会を取り入れたことでより子どもの思いに寄り添った話し合いができた。子どもの実態に合わせてYPプログラムを選んで実施できた。③2回のアンケートと合わせて個人面談を行ったことで、未然防止・早期発見につなげることができた。	B	いじめへの対応	①研修やいじめ防止対策委員会を通して教職員一人ひとりのいじめに対する感度を上げ、未然防止・早期発見・早期対応を徹底する。②YPプログラムを積極的に活用し子どもの社会的スキルの育成を図るとともに、温かい学級風土の醸成に努める。③いじめアンケートと面談内容を全校で共有し組織的な見守り体制を充実させる。			いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	①学校の実態や職員のニーズに合わせた内容で、充実した研修を行う。さまざまな経験年数の職員が主体的に参加し、疑問や意見を共有できる研修会にし、チームで教師力向上をめざす。②学校評価を活かして、業務の明確化・効率化をさらに図る。環境改善プロジェクト(KKP)についても更に進めていく。	①メンターを定期的に開催し、経験豊かな職員も一緒に参加した。ICT活用力向上を目的とする自主参加の勉強会を行う等、柔軟に必要な研修を取り入れられた。②教科担任制の推進や環境改善をさらに進め、ミララムやタブレットの活用を改善することで、業務の効率化を図ることができた。	B	人材育成・組織運営(働き方)	①校務DXIについてAIパイロット校の指定校となっているので、出来る限り校務DXの推進を図る。②学校の実態や職員のニーズに合わせた内容で、充実した研修を行う。さまざまな経験年数の職員が主体的に参加し、疑問や意見を共有できる研修会にし、チームで教師力向上をめざす。③学校評価を活かして、業務の明確化・効率化をさらに図る。			人材育成・組織運営(働き方)	c6		
特別支援教育	①校内支援体制に基づき、支援や配慮を要する児童のニーズに応じた指導・支援を保護者と連携して進める。②個別的教育支援計画・個別の指導計画を振り返る時間を年間行事予定に入れ、必要とされる支援を計画的に行うようにする。③特別支援教育や合理的配慮等に関する研修を行い、特別支援教育の理解を深め、充実を図る。	①日々の連絡帳や電話連絡などを通して、保護者と連携して支援を行うことができた。②前期が修了するタイミングで振り返りを行い、後期の指導に生かすことができた。③全職員向けの研修を開くことはできなかったが、個別級担任間や個別級担任と交流級担任との情報共有・連携を密に行い、一人一人の児童理解を深めることができた。	B	特別支援教育	①校内支援体制に基づき、支援や配慮を要する児童のニーズに応じた指導・支援を保護者と連携して進める。②個別的教育支援計画・個別の指導計画を振り返る時間を年間行事予定に入れ、必要とされる支援を計画的に行うようにする。③特別支援教育や合理的配慮等に関する研修を行い、特別支援教育の理解を深め、充実を図る。			特別支援教育	c7		
児童指導	①学校全体で教科担任制、授業・活動交換等を積極的に進め、多角的な児童理解ができるようにする。②児童が自己理解を深め、課題解決能力を高めることを支援する。③「発達支持的生徒指導」(児童が自発的・主体的に成長する過程を支える生徒指導の在り方)への理解を深め、学級づくり、授業づくりで実践していく。	①多くの目で子どもたちを見取り積極的に情報共有ができた。低学年ブロックでも専科による授業を行うことができた。②日常の学習や人との関わりの中で自分を振り返り、言葉で整理し、他者と共有する過程を大切に指導した。③子どもの言動には必ず理由(背景)があるという考え方で児童指導、学級づくりに取り組めた。	B	児童指導	①学校全体で教科担任制、授業・活動交換等を積極的に進め、多角的な児童理解ができるようにする。②児童が自己理解を深め、課題解決能力を高めることを支援する。③「発達支持的生徒指導」(児童が自発的・主体的に成長する過程を支える生徒指導の在り方)への理解を深め、学級づくり、授業づくりで実践していく。			児童指導	c8		
地域連携 学校運営協議会	①2年生以上の学年で取り組む農園活動など、本校の特色である「地域とのつながり」を大切にしながら地域や保護者、ボランティアとの連携を図り、子どもたちの学習活動をさらに豊かにしていく。②学校運営協議会とともに、学校・家庭・地域が一体となった学校運営を目指す。	①図書や読み聞かせ、農園等の保護者ボランティアや地域の人材、環境と連携し、子どもたちの学習活動をさらに豊かにすることができた。②学校運営協議会で地域や学校の様子について意見交換をしたり、よりよい教育活動推進のために連携することができた。③地域防災拠点と話し合いを重ね、中学ブロック全体が連携した総合防災訓練を行った。	B	地域連携 学校運営協議会	①2年生以上の学年で取り組む農園活動など、本校の特色である「地域とのつながり」を大切にしながら地域や保護者、ボランティアとの連携を図り、子どもたちの学習活動をさらに豊かにしていく。②学校運営協議会とともに、学校・家庭・地域が一体となった学校運営を目指す。			地域連携 学校運営協議会	c9		
安全管理	①防災訓練では、避難スタンダードを基に、基本的な身の守り方・避難の仕方を確実に身に付けさせると共に、起こり得る様々な場面を想定し、状況に応じて適切な避難行動を取る力を養う。②校内の安全点検を定期的に行ったり物品の管理の仕方に気を配ったりし、安全な環境を整える。	①定期的に避難訓練を行い、基本的な身の守り方・避難の仕方を身に付けさせることができた。休み時間に火災が発生した場合の訓練を初めて行った。今後も、起こり得る様々な場面を想定して訓練を行いたい。②校内の安全点検を毎月行った。声掛けによって教職員の安全点検への意識が高まっていった。	B	安全管理	①防災訓練では、避難スタンダードを基に、基本的な身の守り方・避難の仕方を確実に身に付けさせると共に、起こり得る様々な場面を想定し、状況に応じて適切な避難行動を取る力を養う。②校内の安全点検を定期的に行ったり物品の管理の仕方に気を配ったりし、安全な環境を整える。			安全管理	c10		
ブロック内 評価後の 気付き	小学校、中学校それぞれで開催した「合同授業交流会」では、実際の授業における子どもの姿から、教科のつながりだけでなく、小中6年間での育成をめざす「資質・能力」について議論を深められた。また、合同人権研修や学校保健委員会の開催により、人権や健康の視点でも、実態や一貫した支援の在り方を確認できた。小学校、中学校すべての職員で地域の子どもたちを見守る意識をもつことができた。			ブロック内 評価後の 気付き			ブロック内 評価後の 気付き				
学校関係者 評価	運動会や授業参観、作品展などで子どもたちの頑張る様子を見る機会が増えてきた。授業参観では、子どもたちが落ち着いて学習に取り組んでいた。個性や思いを大切にしながら、どの学年でもタブレット端末を生かした工夫した授業が行われていた。自然や人とのかかわりが豊かな地域らしく、子どもたちも、子どもたちにかかわる大人も、あたたかくて優しいと感じている。教師が一人ひとりの子どもたちのことを理解しようとする努力をしている。今年度も多くの児童が地域行事に参加してくれて、地域の活気も以前のように戻ってきた。			学校関係者 評価			学校関係者 評価				
中期取組 目標 振り返り	リーディングDXの研究推進や教科担任制の充実により、主体的・対話的な学びの質の向上を図ることができた。児童が自らめあてをもち、振り返りを通して学びを調整する姿が見られ、資質・能力の育成につながっている。いじめ防止や特別支援教育においても、組織的な情報共有と支援体制の充実を進めることができた。異学年交流や地域連携を通して、温かい人間関係の醸成も図られた。一方で、対話の質の深化や自分の考えを整理し表現する力の育成には課題が残る。次年度は、学びの深まりを意識した授業改善と支援体制のさらなる充実に向けていく。			中期取組 目標 振り返り			中期取組 目標 振り返り				